

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531171

研究課題名(和文) 国際標準を反映した教員用読書力評価パッケージの開発

研究課題名(英文) Development of reading assessment package for teachers based on international standards

研究代表者

足立 幸子 (Adachi, Sachiko)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：30302285

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、諸外国で通用している読書力評価を参考にし、日本において教師が使用する読書力評価パッケージを開発することを目的とした。読書力評価パッケージとは、テストの形態による評価と、読書指導場面において読書力評価をどのように行っていくかを示した「読書評価キット」から構成されている。

テストについては、小中学生向けの図書に関して、10問ずつの設問を作成した。読書評価キットについては、「読書へのアニメーション」「リテラチャー・サークル」「交流型読み聞かせ」「パートナー読書」という、交流を重視した読書指導において、小中学生がどのような交流を行い、反応を示しているかについて、評価する方法を開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is making reading assessment package. The package includes test-style assessment and reading assessment kit which shows how to assess reader-response in the reading interaction and discussion.

I develop 10 questions for each books for elementary school children and junior high school students. I also study how to assess oral response and writing response in "Aniamcion a la Lectura", "Literature Circles", "Interactive Read-aloud", and "Partner Reading".

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：読書力 評価 リテラチャー・サークル パートナー読書 アニメーション 交流型読み聞かせ 国際情報交流 国語教育

1. 研究開始当初の背景

経済協力開発機構 OECD の国際学力調査 PISA における読解力(reading literacy)得点の低下を受けて、全国学力・学習状況調査が行われ、全国規模で国語学力の評価が行われるようになった。また、読書の重要性が確認され、2008 年 3 月改訂の学習指導要領においても、読書活動の充実が盛り込まれた。これは、目標だけでなく、「読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を無ないように位置付け」(中央教育審議会答申、国語科の改善の基本方針)たものとなった。すなわち、課外活動としてではなく、国語科授業の中で、具体的な読書活動が展開されることが期待されている。このような動向を受け、2011 年度・2012 年度使用開始の小学校・中学校国語教科書では、読書活動に関するページが増加している。しかし、読書力評価を行う文面にはなっていない。国語科教育の中で読書活動を確実にし、その性を測定し、次の指導に生かしていくような読書力開発することは、非常に重要になってきている。

2. 研究の目的

本研究では、前述のような背景をふまえ、国際標準を反映した教員用読書力評価パッケージの開発を目的とする。読書力評価パッケージとは、テストの形態による評価と、読書指導場面において読書力評価をどのように行っていくかを示した「読書評価キット」の 2 点から構成される。それぞれについて、次の具体的な課題を設定する。

- (1) 読書のマイクロ・レベル・テストを開発し、小・中・高等学校において、そのテストを用いた読書力評価を行う。
- (2) 読書指導実践に即した質的分析手法を開発する。グループ・ディスカッションを用いた読書指導法「リテラチャー・サークル」を実践し、その実践中のどのような場面で、児童・生徒のどのような現れをどのような形で評価するかを、教員用のガイドとして表現した「読書評価キット」を作成する。

3. 研究の方法

上記の「2 研究の目的」で設定した 2 つの下位課題にそって、研究の方法を述べる。

- (1) 読書のマイクロ・レベル・テストの開発
・海外におけるマイクロ・レベル・テストを分析する。
・海外の読書力評価(マイクロ・レベル・テスト)の枠組みを用いながら、子どもが本を読んで解答する 10 問のテストを作成する。
- (2) 読書指導実践に即した質的分析手法の開発
・「リテラチャー・サークル」などのグループ・ディスカッションを用いた読書指導を教育現場で試行的に行い、どのような評価が可能であるかを検討する。

4. 研究成果

(1) 読書のマイクロ・レベル・テストの開発

欧米で行われている読書のマイクロ・レベル・テストを分析して研究論文を執筆した。小・中学生に読むことが推奨されている本について、Question Answer Relationships (QAR) の枠組みを用いて、10 問のテスト問題を作成した。当初は高校生用のものも開発する予定であったが、結果としてはそこまで行うことができなかった。

(2) 読書指導実践に即した質的分析手法の開発

研究開始当初は、「リテラチャー・サークル」という 1 つの読書指導法の実践を行い、質的分析手法(評価方法)を開発する予定であったが、研究を進めるうちに、「読書へのアニメーション」「交流型読み聞かせ」などの欧米で使用されている他の方法や、「パートナー読書」という自ら開発した読書指導法の研究も勧めることとなった。「読書へのアニメーション」については、小学校で実践を行い、児童の現れを教師(アニメーター)がどのように評価しているかについて検討した。「リテラチャー・サークル」については、中学校で実践を行い、書き言葉(ワークシート)、話し言葉(話し合い)を参照して評価が可能であるとの結果が得られた。「交流型読み聞かせ」については、教師と子ども、子ども同士の会話で交流を行うのであるが、交流を導く教師の発言によって、評価が行えそうだという見通しが得られた。「パートナー読書」については、3 種類のワークシート(役割読みシート、自由トークシート、本別設問シート)を開発し、中学校で実践を行った。これによって、書き言葉での交流、話し言葉による交流の両方について、評価が行えることを明らかにした。

本研究の成果は、これらの評価法を用いた読書力評価パッケージの可能性を明らかにしたことである。パッケージ化には、テスト・ワークシート・評価基準シートの量的な充実が必要である。さらに、教師だけでなく児童・生徒自身も評価を行っていきけるような工夫の開発が今後の課題である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 10 件)

足立幸子、国語科における協働型学習を取り入れた読書指導、子どもと授業、査読無、第 72 号、2014、2-5.

足立幸子、初読の過程をふまえた読書指導 ハーベイ・ダニエルズ「リテラチャー・サークル」の手法を用いて、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編、査読無、6(1)、2013、1-16.

足立幸子、国際読書学会第 57 回年次大会報告 評価に関する研究発表に焦点をあてて、読書科学、査読無、55(4)、2013、157-164.

足立幸子、国際読書学会第 56 回年次大会

- 報告、読書科学、査読無、55(4)、2013、150-156.
- 足立幸子、パートナー読書、教育科学国語教育、査読無、765、2013、82-83.
- 足立幸子、国語科教育法において大学の授業と学校現場をつなぐ工夫、SYNAPSE、査読無、20、2013、42-45.
- 足立幸子、読書力を評価するミクロ・レベル・テスト、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編、査読無、5(2)、2013、127-132.
- 足立幸子、中学校現場に適した二人組交流型読書指導法「パートナー読書」の開発、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編、査読無、4(2)、2012、103-128.
- 足立幸子、ポストモダン絵本を教材とした読書指導、新大国語、査読無、35、2012、14-44.
- 足立幸子、読み手と聞き手を育てるラジオ・リーディング、教育科学国語教育、査読無、737、2011、20-22.
- [学会発表](計12件)
- 足立幸子、読者反応に基づく読書の指導と評価、全国大学国語教育学第126回会名古屋大会、2014年5月17日、愛知県産業労働センター
- 足立幸子、交流型読み聞かせにおける交流の内容、全国大学国語教育学会第125回広島大会、2013年10月26日、広島大学
- Adachi, S. The role of school library support centers in enhancing students' collaboration skills through group reading. International Association of School Librarianship 42nd Annual International Conference. 2013年8月27日、Sanur Paradise Plaza, Bali, Indonesia.
- 足立幸子、翻訳絵本の読者反応を規定する前提要因『ひろしまのピカ』の日米比較研究、日本読書学会第57回研究大会、2013年8月4日、林野会館
- 足立幸子、交流型読み聞かせ、全国大学国語教育学会第124回弘前大会、2013年5月18日、弘前大学
- 秋田喜代美、深谷優子、上原友紀子、足立幸子、中学生及び高校生の同所活動の実態とその規定要因、日本発達心理学会第24回大会、2013年3月15日、明治学院大学
- Yokota, J., Adachi, S., & Teale, W. H., A critical analysis of Rose Blanche in translation: Bringing a holocaust story to a Japanese audience. Literacy Research Association 62nd Annual Conference. 2012年11月30日、Sheraton San Diego Hotel & Marina, California, U.S.A.
- Adachi, S. A sense of place: As depicted by Hans Christian Andersen winning illustrators. 33rd IBBY International Congress. 2012年8月24日、Imperial College London. London. U.K.
- 足立幸子、読書を通じた交流の内容「パートナー読書」での読者反応と交流、全国大学国語教育学会第122回筑波大会、2012年5月26日、筑波大学
- 足立幸子、パートナー読書 中学生を対象とした二人組読書交流の可能性、日本読書学会第55回研究大会、2011年8月6日、全林野会館
- 足立幸子、初読の過程を生かしたグループ・ディスカッションによる読書指導、全国大学国語教育学会第120回京都大会、2011年5月28日、京都教育大学
- Yokota, J. & Adachi, S. Talking about issues that matter through discussion of picture books. International Reading Association 56th Annual Convention. 2011年5月8日、Orange County Convention Center, Orlando, Florida, U.S.A.
- [図書](計7件)
- 足立幸子、第5章新しい国語科の授業実践 第1節読書へのアニメーション、柴田義松・阿部昇・鶴田清司編、あたらしい国語科指導法四訂版、学文社、2014、141-147、全208
- 足立幸子、第2章国語科教育の内容と方法 第6節読書指導・読み聞かせ、柴田義松・阿部昇・鶴田清司編、あたらしい国語科指導法四訂版、学文社、2014、81-86、全208
- 足立幸子、第1章メディア教育、リテラシーに関する研究の成果と展望 第1節映像に関する研究の成果と展望、全国大学国語教育学会編、国語科教育学研究の成果と展望、学芸図書、2013、369-376、全574.
- 足立幸子、第1部教育に学校図書館をどう生かしているか 第2章フランスの読書教育、全国学校図書館協議会フランス学校図書館研究視察団編、フランスに見る学校図書館専門職員 ドキュメンタリスト教員の活動、全国学校図書館協議会、2012、24-27、全119.
- 足立幸子、第2部私たちが訪れたオーストラリアの学校図書館、クイーンズランド大学図書館、全国学校図書館協議会オーストラリア学校図書館研究視察団編、オーストラリアに見るコミュニケーション力を培う学校図書館、全国学校図書館協議会、2011、118-121、全143.
- 足立幸子、第1部教育に学校図書館をどう生かしているか、1 オーストラリアの教育と学校図書館、全国学校図書館協議会オーストラリア学校図書館研究視察団編、オーストラリアに見るコミュニケーション力を培う学校図書館、全国学校図書館協議会、2011、20-23、全143.
- 足立幸子、第1章発達段階に応じた読書指導、全国学校図書館協議会「シリーズ学校図書館学」編集委員会、シリーズ学校図書

館学4 読書と豊かな人間性、社団法人全国
学校図書館協議会、2011、59-75、全 175.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

足立 幸子 (ADACHI SACHIKO)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：30302285

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし